

日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第185回定期演奏会

The 185th Regular Concert

和楽劇

呑気布袋

ドン・キホーテより

2006年

11月18日[土]

昼の部 午後2時開演
夜の部 午後6時開演
第一生命ホール

- 主権：特定非営利活動法人日本音楽集団
NPOTリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール
- 助成：平成18年度文化庁芸術創造活動重点支援事業
財団法人朝日新聞文化財団
- 後援：スペイン大使館



“祝”ホール新装オープン5周年記念

日本音楽集団代表 田村拓男

3年前の音楽劇「砂漠に消えた王」(オイディプス王より)に続く、今回の和楽劇「呑気布袋」(ドン・キホーテより)。この奇想天外な発想の仕掛け人は音楽集団の笛吹き西川浩平です。常に新しい目で音楽を考える彼の企画と行動力に、今回も3人の作曲家や多くのメンバーたちが応え、期待を寄せています。

「ドン・キホーテ」の日本版を荘奈美氏に持ちかけたことから始まった和楽劇「呑気布袋」には、狂言の善竹十郎氏(呑気布袋)、テノールの森一夫氏(山椒半左)、元宝塚スターで大活躍の上原まり女史(華の精)という願ってもないキャストが揃い、重要な役目を担う合唱には東芝フィルハーモニー合唱団、演出に近藤久也氏を得て、このユニークなコラボレーションによる成果を楽しみにしているところです。

特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク ディレクター 兎玉 真

日本音楽集団との関係は第1回定期演奏会からの歴史があるが、新しい第一生命ホールでも日本音楽集団に声をかけたのは同じNPOとして共通の意識が持てるかもしれないという気持ちからである。

邦楽のオーケストラというのは難しい分野だが、流派の域を超えて音楽を作り出していくという意気込みと、その良さを社会に広める努力の必要性認識がお互いの共通項だった。

この5年間、コンサートとコミュニティ活動の両方で協働してきたが、第一生命ホールでの定期公演ではお互いが納得できるコンセプトを考えたいと思って協議を始めた。5周年の今回は、特に邦楽とは密接な関係がある「言葉」を最大限に活かした公演として、和楽劇「呑気布袋」という提案をいただいた。邦楽オーケストラの多彩な音世界と、狂言、芝居、声楽、合唱という4つの違った性格の声が持つ力強さが感じられればそれ以上の喜びはない。

演出 近藤久也

世の中ドン・キホーテタイプの間人は結構多いようです。今回、私たちは邦楽の「和の音」に乗せて呑気布袋(のんき・ほてい)という一人のドン・キホーテタイプを作り出しました。「書物狂い」で、「猪突猛進のお坊様」で、「恋を恋する夢追い男」、でも「汚れない心を持って」いて禅の道に殉ずる「山寺の呑気布袋」です。

邦楽の演奏に混声合唱を加え、それにストーリーを持たせるという「邦楽ミュージカル」とも言うべき試みに魅せられて遮二無二突進した私もかなりドン・キホーテであることは明らかです。

時は江戸時代の初めと思えば、いや現代かも知れない。荘奈美さんの脚本は奔放で且つ深遠。想いが、時空を越えて飛び回ってくれたら嬉しい話。話を進めるのは狂言師の善竹さん・宝塚出身の上原さん・テノール歌手の森さんの三人のコラボレーション。舞台は狂言の舞台を象徴的に借りました。

呑気布袋という形象にどれだけ観客の皆さんの共感が得られるか、大いに声を出して笑って楽しんでいただきたいのですが、頼りにするのは、「和の音」と天国のセルバンテスさんです。

和楽劇

呑気布袋

ドン・キホーテより

和楽劇 呑気布袋 初演

序の段 門出
 二段目 白龍
 三段目 花吹雪
 四段目 宝船
 一休憩一
 五段目 春駒
 六段目 遊里
 七段目 決闘
 大詰 還魂

脚本 莊奈美
 演出 近藤久也
 作曲 秋岸寛久
 川崎絵都夫
 福嶋頼秀
 客演 善竹十郎(呑気布袋)
 上原まり(花の精)
 森一夫(山椒半左)
 合唱 東芝フィルハーモニー合唱団
 指揮 田村拓男
 演奏 日本音楽集団
 美術デザイン 根本研二
 美術プロデューサー 本田邦宏
 照明 菅野裕士
 音響 姫田 蘭
 舞台監督 松下 要
 演出助手 姫田 大隆
 楽器、舞台 中島 隆
 琴光堂
 IMS
 協力 フジアール
 東京テレビセンター

日本音楽集団出演者

[笛] 竹井 誠
 [箏] 西原 祐二
 [尺八] 加藤 秀和
 阪口 夕山
 原郷 隆
 元永 拓
 米澤 浩
 渡辺 淳
 [三味線] 工藤 哲子
 穂積 大志
 箕田 弘大
 山崎 千鶴子
 [琵琶] 首藤 久美子
 細川 華鶴子
 [箏] 久東 寿子
 熊沢 栄利子
 桜井 智永
 久本 桂子
 三宅 礼子
 [打楽器] 高橋 明邦
 多田 恵子
 望月 太喜之丞
 盧 慶順

前口上・時と所のこと

莊奈美

いまわしい戦乱の時代が終りを告げて何十年か経ったころ、みせかけの平和と繁栄の中で人びとの心が青チーズのようにつーんと酸っぱい匂いを放ちまくっている最中。ちょっとばかり人とは変わった行動をとったりすると、良識あると自称する人々から、狂気の沙汰と指弾され、足蹴にされるような心の風土が、ぶよぶよと広がっている時代ならどの時代でも構いません。

所についても同様です。金銭欲・物質欲・目立ちたがり欲にとりつかれて目が血走っている人々が押し合いへし合いしている大都会から遠く離れたどこかの片田舎。読書にはもってこいの環境ですが、現代日本にはどこを探しても見つかりません。今やわれらは、日毎夜毎押し寄せる電波的・電子的情報の大津波から逃れる術はなく、ついうっかり、古きふみ、古きうた、古き能狂言のことはなど記された書物に読みふけてでもいようものなら、たちどころに社会的脱落者の烙印を押されるのであります。

幸運にもわれらが主人公は、そのような情報地獄から遠く離れたユートピアで古今の優れた書物を読み漁ったあげく、電波的・電子的クズ情報とは全く異質の、古代的・中世的幻想情報つまりは時代錯誤的な空想の霧で頭を満タンにして、突発的な遍歴の旅に出るのです。いざ、出発!

とは言っても、その行動半径、たかだか十数キロ程度といったところでしょうか。

裏方 仙堂新太郎
 西川浩平
 サラシ・ガールズ
 加藤明美
 鈴木 蘭
 星野綾子
 丸山緒理恵

ウラカタ・ガールズ
 大矢知美
 加藤 梓
 橋口 恵
 瓶子真弓
 (お茶の水女子大学箏曲部)
 石黒木の華
 金子 愛
 仲西由美子
 中野菜摘
 藤本慎子
 遊佐珠江



[狂言] 善竹十郎

[呑気布袋]

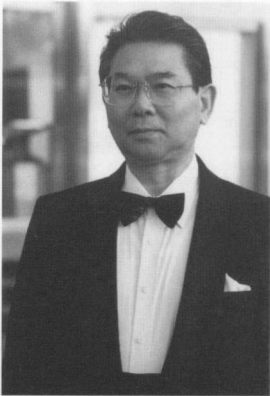
昭和19年大阪生まれ。故善竹圭五郎の長男。父及び大藏流24世宗家故大藏彌右衛門、祖父故善竹彌五郎(人間国宝)に師事。早大卒。6才で初舞台。(社)能楽協会(社)日本能楽会々員。重要無形文化財総合指定保持者。昭和58年度芸術選奨文部大臣新人賞、平成5年大阪文化祭賞受賞。桐朋学園芸術短大、昭和音大、帝京平成大講師。



[琵琶唄] 上原まり

[華の精]

宝塚歌劇団花組娘役トップスターとして「ベルサイユのバラ」のマリー・アントワネット役で一世を風靡。退団後は筑前琵琶奏者として、日本の二大古典「平家物語」「源氏物語」の演奏活動、CD制作等を含め活躍している。



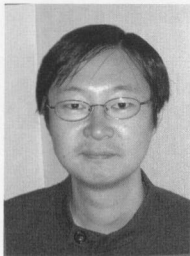
[テノール] 森一夫

[山椒半左]

1962年東京声専音楽学校音楽科卒業。

二期会合唱団を経て'68年東京混声合唱団に移籍。柴田南雄「追分節考」「萬歳流し」「往生絵巻」初演。間宮芳生「コンポジションI・V」等のソロで活躍。'88年リサイタルで間宮芳生「陀助の首」を委嘱初演し好評を得る。'01年波多野陸美と間宮芳生「日本民謡集」全曲演奏しCD化される。現在フリー。

作曲家プロフィール



秋岸寛久

1962年横浜市生まれ。東京音楽大学卒。作曲を助川敏弥、浦田健次郎、三木稔の各氏に師事。卒業時の作品「三味線協奏曲」は仙台フィル及び日本フィルの定期演奏会、東京音大シンフォニック・オーケストラのアメリカ公演等で演奏される。日本フィル九州公演20周年委嘱作品「交響連詩〈九州〉」(和田薫氏と連作)、横浜国大グリークラブの創部50周年委嘱作品「樹木頌」、NHK邦楽技能者育成会45期委嘱作品「往来」などを手掛ける。



福嶋頼秀

1967年前橋市生まれ。慶應義塾大学法学部卒。東京フィル、日本フィル、東京都響、オーケストラ・アンサンブル金沢、フランツ・リスト室内管(ルーマニア)等からの編曲依頼等多数。現田茂夫、足立さつき、錦織健、佐野成宏、古川展生の各氏等が演奏。2003年チョン・ミョンファン監修・指揮のコンサートの企画・編曲を担当。土曜ワイド劇場や月曜ドラマスペシャルの劇伴音楽、ニュースステーションのジングル等の音楽も担当。



川崎絵都夫

作曲家。1959年東京生まれ。魚座。A型。東京芸術大学作曲科卒業後、オーケストレーターとして活躍。並行して邦楽器、合唱、室内楽などの委嘱作品発表を続けている。また文学座・新国立劇場を始めとした舞台音楽も多数。邦楽合奏作品は親しみ易い作風で広く演奏されている。日本作曲家協議会会員。東京ミュージック&メディアアーツ、尚美特別講師。2000年～2004年・早稲田大学文学部講師。

東芝フィルハーモニー合唱団



[ソプラノ]

井石岡小加久住黒小近坂佐須鈴高竹千寺出豊古前松松仁
 澤川村野藤呂崎林藤田藤水沢木橋村田山水島川田岡田田
 須嘉真治久圭孝聿洋智晶教郁幸幸由三な美也穂有美江
 美貴美子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子
 子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

南宮安八柳湯渡
 久麻衣 利聖美は
 美子 薫子 子え
 子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

[アルト]

青小梶軽木北小
 木倉野部島林林
 夕香邦喜百合曉真
 子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

小相杉玉綱富長中浜日藤古本村山
 林染森木島岡沢山尾向原河間岡口
 洋多暢章洋久千文静公明幸麻武英
 子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子子

[テナー]

市系大川結柴高竹井金
 村山橋村東田坂橋村出内
 竹新一和博 和真
 司勝郎男史豊潔勝稔彦二

[ベース]

井上遠大太亀小小眞清清高富廣松松丸南森安山
 沢野藤竹田鳥田林林井水水屋岡岡岡川山 森田
 浩拓正 知多乾正 勝雅光正正 尚晃昭俊亮雄
 一隆夫一茂久彦泰通巖正己吾次宏聰弘司彦昭一也

東芝フィルハーモニー合唱団

東芝グループ社員OBOG、その家族等で構成する企業内混声合唱団で92年5月発足。常任指揮者河地良智先生のご指導の許、定期演奏会、日本産業音楽祭等で演奏活動中。団員約150名。ベートーヴェン交響曲第9番、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト・ブラームス・フォーレ他の「レクイエム」、ミサ曲、オペラ、ミュージカル、ポピュラーソング、世界・日本の民謡・合唱曲等、幅広いジャンルで音楽活動を行っている。

「^{ひらだい}平台のマジック」

企画 西川浩平

舞台の道具に「平台」というものがある。3尺6尺高さ4寸の長方形の平らな台なのだが、たて横に並べても積み上げて、実に使い勝手のよい道具である。私はこの「平台」という響きが好きだ。この「平の台」を延長したのが、実は「ステージ」であると考えからだ。

今回のような大掛かりな舞台を作り上げるときには、それぞれの専門分野の方たちから、深い経験に基づいたありとあらゆるアイデアが出されてくる。その一つ一つの提言を重ね足して行けば、狭いステージはたちまちパンクしてしまう。しかし私には一つ信じている事がある。舞台に関わる全ての物事が、ステージという「平の台」に上がった時に、最後にはゴソゴソとそれぞれが不思議に収まり、輝きだすことを。それは皆が平等に得られるステージのマジックなのだ。「呑気布袋」のテーマでもある「平和主義」は、この「平の台」に因るものなのかと、大袈裟でなく私は考えている。

次期、日本音楽集団定期演奏会へのお誘い

第186回日本音楽集団定期演奏会 「明日への扉を開く」

2007年1月26日(金)

津田ホール 19:00開演

- トポロジカル・スペース(秋岸寛久)
- 寓懐あまつかぜ(委嘱・初演、尾形敏幸)
- 尺八三重奏(川崎絵都夫)
- 四つのプロフィール(福嶋頼秀)
- 新曲(委嘱・初演、真鍋尚之)

日本音楽集団は創立以来、団内作曲家と、それを実演する演奏家とのエネルギーの衝突と融合により生み出された作品を世に送り出すことで、邦楽界、音楽界に新たなムーブメントを起こしてきました。そうした中から若手団員中心に生まれた「研究会」が、新しい感性で今回の定期演奏会をプロデュースします。団内作曲家による5曲のプログラムで、伝統音楽に対し意欲的なアプローチを試みます。



第187回日本音楽集団定期演奏会

郢曲「鬢多々良」

～伊福部昭師に捧げるコンサート～

2007年5月25日(金)

第一生命ホール 19:00開演

【客演】二十絃箏ソロ：野坂恵子

- 「ゴジラ」邦楽器版編曲・初演(秋岸寛久編曲)
- 郢曲「鬢多々良」(1973年)
- 「交響譚詩」(1943年)

／秋岸寛久編曲・日本音楽集団版

ほか

今年2月8日、日本作曲界の重鎮・伊福部昭氏が享年91歳で永眠されました。氏は、1973年、文化庁芸術祭主催公演において、文化庁委嘱・日本音楽集団初演による郢曲「鬢多々良」(えいきよくびんたたら)を作曲されました。これは氏にとって唯一の邦楽合奏曲であり、日本音楽集団のみならず、日本の音楽界(邦楽界も含めて)の大きな財産となりました。初演をともした野坂恵子氏を招き演奏します。そして「交響譚詩」の再演と「ゴジラ」の邦楽器版編曲を初演します。



- 入場料金 前売 A=5,000円 B=4,000円 C=3,000円/当日売 A=5,500円 B=4,500円 C=3,500円
- ヤングシート 25歳以下の方にB、C席を割安料金で(前日午前中までに日本音楽集団事務所へご連絡ください)。
- チケットお申し込み 日本音楽集団 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033 E-mail office@promusica.or.jp

2007年新春、日本音楽集団正月公演へのお誘い

新春を飾る和の響き

春の海～和楽器の調べ～

2007年1月2日(火) 13:00開演

東京国際フォーラムC

2007年1月3日(水) 11:30開演

大宮ソニックシティ大ホール

2007年1月6日(土) 17:00開演

横浜みなとみらいホール

宮城道雄「春の海」、滝廉太郎「花」など日本が誇る音楽家の代表作と、私たちの心に深く刻まれている親しみやすい邦楽の名曲を、日本音楽集団が流麗に奏でます。晴れやかな日本のお正月を、ゆったりとお楽しみ下さい。

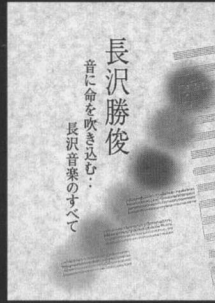
【編成】笛、尺八、三味線、琵琶、箏、十七絃、打楽器、獅子舞

<予定曲目> ●春の海 ●新八千代獅子 ●花 ●HARU ●寿獅子舞 ●萌える初春 他

●チケットお申し込み・お問い合わせ ●
日本音楽集団 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
E-mail office@promusica.or.jp

長沢勝俊

音に命を吹き込む・
長沢音楽のすべて



日本音楽集団の西川浩平、水川寿也、宮越圭子の対話者が、“長沢ブシ”の魅力を訪ね、長沢勝俊の音楽人生について語る。

長沢と共に歩んだ方々の貴重なメッセージを収録。また、作品年表も掲載。 A5判 定価700円

お知らせ

2007年 日本音楽集団入団オーディション開催日決定!

2007年3月13日(火)

会場：原宿アコスタジオ

本団の活動趣旨に賛同し、団員としてその活動に参加するプロの音楽家を広く公募し、オーディションを開催いたします。
詳しくは、本団のホームページをご覧ください。

■ 日本音楽集団：<http://www.promusica.or.jp/>

ご案内

ニッポニア・ファイブ会員募集

日本音楽集団では、ニッポニア・ファイブ会員を募集しています。
お申し込み頂きますと、連続5回の定期演奏会がお得な料金でフリーパスになります。

■ 会 費

- ニッポニアAファイブ：15,000円
※定価5,000円のA指定席でお聴き頂けます。
- ニッポニアBファイブ：12,000円
※定価4,000円のB指定席でお聴き頂けます。

■ 申し込み

1. 申込用紙に記入の上、演奏会場受付で
2. 郵便振替で送金(通信欄に申込事項を記入) 又はfax、e-mailで申し込んで銀行振込

■ 特 典

1. 定期演奏会がフリーパスになり、前日までにお電話いただければ、お連れ様と共に座席を確保致します。
2. 日本音楽集団が主催するコンサートの割引が受けられます。
3. 日本音楽集団が扱う、CD・楽譜の割引が受けられます。
4. 各種ご案内を差し上げます。

特定非営利活動法人日本音楽集団

〒151-0073東京都渋谷区笹塚3-17-1滝沢ビル302号

TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033

ホームページURL <http://www.promusica.or.jp/>

E-mail office@promusica.or.jp

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。
募集の詳細はチラシをご参照ください。

【賛助会員】五十音順

法人

(株)全音楽譜出版社

(株)宮本卯之助商店

NPOトリオン・アーツ・ネットワーク

個人

青柳 克 堯
新井 智 輔
安堂 塚 淨
飯塚 絹 子
飯吉 正 山
伊藤 美 恵 子
今村 厚 子

江太 大 川 岸 後
西関 太 塚 壁
緑枝 衣 子 正 則 子
富 颯 悦 彰 陽
藤 藤

四反田 素 幸
杉田 和 繁
関 井 厚 雄
土 井 恵 見
中 島 靖 子
浜 田 靖 子
古 川 羽 衣 山

本水 田 実
渡野 野 徳
波 辺 治 子

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
ホームページ <http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp



アイ・エム・エス

●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル

PHONE.03-3397-2292

FAX. 03-3397-7728

粋に愉しむ

和楽器 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15
TEL **03(3792)8481** FAX 03(3792) 8437
E-mail : tokyo@kinko-do.com